

高まるキャンプ人気

近年、人気が高まっているキャンプ。筆者の周りでも始める人が増えた。

日本オートキャンプ協会によると、2012年に720万人であったオートキャンプの参加人口は19年には860万人となり、7年連続で増加した。県内のキャンプ場においても、今年度はコロナ禍とはいえ、夏や秋の休日は予約で埋まり、昨年度を上回る稼働率だったと聞く。ソロキャンプや冬キャンプといった楽しみ方の広がり、3密を回避できることがその要因といえる。

また、近年は「グランピング」施設も増えた。グランピングとは、「グラマラス（魅惑的な）」と「キャンピング」を掛け合わせた造語である。自分でテントの設営や食事の準備をする必要がなく、手ぶらでキャンプ気分を味わえることから、キャンプ初心者や小さな子ども連れでも気軽に楽しむことができる。

県内では14年に「伊勢志摩エバーグレイズ」（志摩市）、16年に「奥伊勢フォレストピアリバーサイドヴィレッジ」（大台町）、20年に「グランオーシャン伊勢志摩」（伊勢市）などが開業している。今年は、いなべ市に北欧の世界観をテーマにしたアウトドアフィールド「Hygge Circles Ugaiki（ヒュッゲ サークルズ ウガケイ）」がオープン予定だ。

グーグルが発表した2020年都道府県別検索ランキングによると、「三重県」と組み合わせ検索された言葉の3位に「グランピング」が挙がっており、県内でのグランピングへの注目度が全国的に高まっていることがうかがえる。

キャンプもグランピングも雄大な自然の中で味わう食事が醍醐味（だいごみ）の一つだ。県内のキャンプ場を訪れる人のなかには、近くのスーパーや道の駅で新鮮な魚介類など地域の産品を購入する人が多いそうだ。

キャンプやグランピングを通して、豊かな自然と豊富な食材がそろう三重県の魅力が改めて伝わることに期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 研究員 岡澤 初樹）